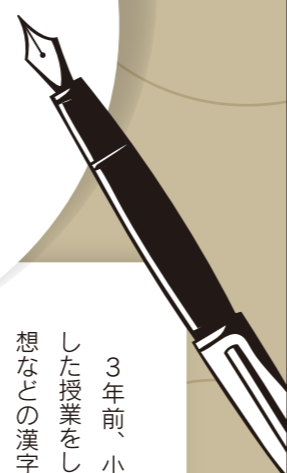




大人の遠足(実藤別郎にて昼食)  
大人がリュックに弁当を詰めて遠足に行く。  
ただそれだけのことが楽しい。

「大人は遊ばない?」



3年前、小学生へ詩をテーマにした授業をしたことがある。夢、遊、想などの漢字を並べ「夢を持つ」と「大人になっても遊ぼう」と子供へ伝えたいことを文にしたら子供たちが怪訝な顔をした。大人は遊ばないのだと思い込んでいたようだ。大人は職業や役割という公の仮面をかぶっていて、素の自分を子供の前に晒さない。まさか「遊んでばかりおらんで勉強せんね」といつも言っている母親が遊ぶなど考えられないことなのだ。

小学校5年まで串間で育った。その頃は近所に同じ世代の子供がたくさんいて、いつも山や川、海でよく遊んだ。その後、遊びからは遠ざかったが、大阪で働いていた50歳の時、友人に誘われて郡上八幡へ渓流釣りにでかけるようになった。山中の別荘には電話もテレビもなかったが、春夏秋冬泊3日の釣行は遊びが詰まっていた。近くを流れる渓流ではアマゴやイワナが釣れた。男4人で自炊生活。魚をさばき、一夜干しにする。炭火焼料理をつつきながら夜中まで酒を飲んだ。そうした楽しい遊びを写真に撮り、それを小冊子にまとめて知り合いに自慢した。この頃、釣遊びの延長で料理や写真、文章書きが身近なものになった。小冊子はやがてブログに変わり、日々のことを記す写真日記となった。その頃から書き続けているブログ記事は今も続いている。1400を超えた。遊びがさらなる遊びや趣味を育ててくれた。

60歳で会社を辞め、串間へ夫婦で帰ってきてすぐに別荘風の住居を建てた。建築設計を生業としていたが、初めて自分のために設計し、居心地のよい空間を作った。さてこれから楽しい生活が始まると思った矢先、妻が急逝した。妻の死を境に主夫になった。家事は楽しむことにした。毎日の食事作りはもちろん、冬は金柑ジャム、初夏は梅ジャム、梅干、梅酒を、夏は夏野菜を作り、秋には干し柿を作る。たまに漁師の従兄弟にもらう魚を料理して辛口の日本酒を楽しむ。

交際も楽しむことにした。図書館主催の読書会に参加。生涯学習のエッセイクラブ、新聞主催のペンクラブに入り、毎月がぎ随筆を投稿する。読書も随筆も写真も日々の何気ない事柄に価値を見つけて出すことにほかならない。去年



いわした りゅうきち  
岩下 龍吉 (65歳)  
串間市出身。小学校6年時、父正二郎の推業への転勤に伴い転校。日向学院中高、熊本大学、大学院を経て、(株)竹中工務店入社。退職後帰郷。一級建築士事務所開設。NPO法人蘇鉄の会にて地域活動。

情報 アラカルト

串間で行われるイベントやまちの話題まで、見逃せない情報が満載です。

TOPIC



愛好家の力作がずらり 盆栽展にぎわう

11月1日から3日、文化会館のホワイエで串間市盆栽愛好会が主催する盆栽展が開催されました。愛好家が丹精込めた約40点を出品。幹のねじれを生かした真柏やサツキなど、穏やかな緑が印象的な作品が並び、秋の情緒を感じさせる力作が来場者を楽しませていました。

TOPIC



人権擁護委員の久保野俊郎さんが 法務大臣表彰

10月16日、人権擁護委員の久保野俊郎さんが法務大臣表彰を受けられました。平成17年10月から人権擁護委員、平成28年5月からは日南人権擁護委員協議会会長も務め、人権相談業務や人権啓発活動を通じて、地域住民への人権思想の普及・高揚に多大なる貢献をされた功績が認められました。

TOPIC



市木・龍源寺の歴史を語る講演会

11月8日、室町から江戸時代初期にかけ、中国との貿易において欠かせない場所となっていた市木の龍源寺について講演会があり、鹿児島大学の大淵貴之氏が龍源寺における学問についての講演を行いました。また、識者5人によるシンポジウムでは、さまざまな角度から郷土の歴史を語っていただきました。

TOPIC



保護司の活動拠点に 更生保護サポートセンター開所式

11月1日、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支援する保護司の活動拠点「串間地区更生保護サポートセンター」の開所式がありました。センターは西方の串間地区管工事組合の隣に設置し、1日から業務を開始。企画調整保護司が駐在し、地域に根差した犯罪や非行の予防活動などを行います。

TOPIC



センバツ21世紀枠 県内推薦校に福島高校

来春の第90回選抜高校野球大会の21世紀枠の県内推薦校に福島高校が選ばれました。平日の短い練習時間を工夫した内容で行い、秋の県大会でベスト8入りしたことや、地域の祭りやボランティアなどに積極的に参加していることが評価されました。選抜大会の21世紀枠は全国から3校が選ばれます。